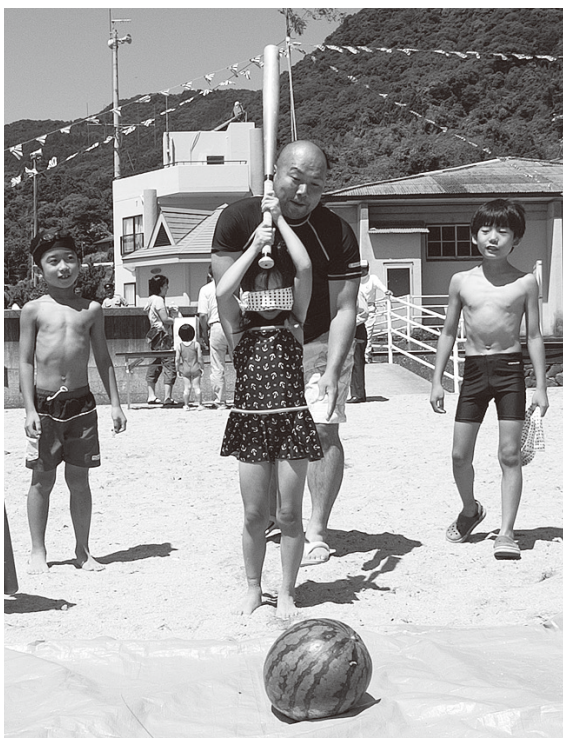




▲スイカ割りをする子ども

おとなは子どもの見本

社会を明るくする運動・教育力活性化推進大会

7月7日、「第62回社会を明るくする運動推進大会・天草市教育力活性化推進大会」が、牛深総合センター大ホールで開かれ、約800人が参加しました。

大会では、同運動を啓発する作文・標語入賞者の表彰や事例発表のほか、弁護士菊地幸夫さんが「出会いの人生から学んだこと～行列ができる弁護士は私です～」と題して講演。自身が監督を務めるバレーボールチームの子どもたちとのエピソードを披露し、「おとなは子どもに見本を見せることが大切」などと話され、来場者は熱心に聞き入っていました。



▲講演を行う菊地弁護士

待ちにまった海開き！

立海水浴場・海開き

新和町小宮地にある“立海水浴場”で7月8日、宮南地区振興会主催で海開きが行われました。

梅雨時期にもかかわらず晴天に恵まれたこの日は、シーズン中の安全を祈願して関係者など20人が参加して神事を実施。その後、浜辺では地元の子どもたちがスイカ割りをしてにぎわいを見せたほか、待ちにまった初泳ぎを楽しんでいました。

島の成り立ちや化石に興味津々

西日本新聞社のこども記者が天草御所浦ジオパークを取材

福岡県の小学6年生3人が7月7・8日、西日本新聞社（福岡市）のこども記者として御所浦町を1泊2日で訪れ、天草御所浦ジオパークの取材を行いました。記者たちは、市学芸員の案内を受けながら、御所浦白亜紀資料館やトリゴニア砂岩化石採集場などを取材。また、鳥峠では山頂に展示されているアンモナイトなどの化石を見て、「なぜ山頂から海の化石がでてくるのか」と市学芸員に質問するなど、島の成り立ちや化石に興味津々のようでした。



▲御所浦白亜紀資料館で学芸員の説明を聞く子ども記者たち

天草最高峰の山頂までの新たな登山道が開通

倉岳延命登山道

7月14日、天草最高峰“倉岳”の山頂までの新しい登山道、『倉岳延命登山道』が開通しました。この登山道は、倉岳トレイルクラブが登山愛好者からの要望を受けて整備したもので、全長は3.4km。山の中腹にあった延命地蔵にちなんで、この名前になりました。

この日は開通式が開かれ、登山の安全を祈願して神事が行われたほか、登山道の整備に貢献された市内在住のリックさん・リアンさんご夫婦に、NPO法人おらが村エンジョイあまくさから金一封が贈られました。その後、15人が参加して登山を実施。参加者は思いおもいのペースで登山を楽しんでいました。



▶登山をスタートする参加者

たくさん実ってね！

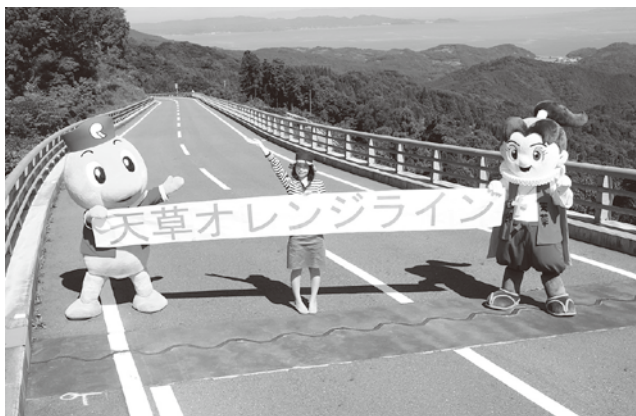
栖本小学校・田植え体験

6月28日、栖本小学校5年生21人とその保護者が、同校近くの水田8アールで田植え体験を行いました。これは同校が、児童に農業や食の大切さを学んでもらおうと毎年実施しているもの。

児童たちは、田んぼのぬかるみに足をとられてどろんこになりながら、もち米の苗をていねいに植えていました。なお、秋の収穫時期には児童たちが稲刈りを行い、とれたもち米は同校で実施するもちつきなどに使われる予定です。



▲どろんこになりながら田植えを行う児童



▲『天草オレンジライン』（有明町下津浦の仁田岳橋で撮影）
（写真右端は上天草市のシンボルキャラクター“四郎くん”
左端は天草海道フェスタのマスコットキャラクター“キャプテン海道くん”）

愛称は『天草オレンジライン』

上島中央広域農道の愛称が決まる

下浦町から上天草市松島町を結ぶ総延長約23kmの「上島中央広域農道」の愛称が6月14日、『天草オレンジライン』に決まりました。これは、上島中央広域農道愛称選考委員会が、同道の愛称を募集し応募があった191件・作品数172点の中から選んだもの。天草オレンジラインという愛称には6人から応募があり、“オレンジ”が天草特産のデコポンやポンカンなど、かんきつ類の産地をあらわしていることなどが評価されました。